

第3回 新潟市水族館指定管理者申請者評価会議 議事録

- 1 開催日時 令和5年10月13日（金）午前10時00分から午前11時40分
- 2 開催場所 公益財団法人新潟市産業振興財団 ビジネス支援センター セミナー室
- 3 出席委員 木伏 隆 （アイシスネオ会計税理士法人 代表社員・所長）
平田 英治 （非営利活動法人まちづくり学校 副代表理事）
本間 武 （ちとせ社会保険労務士事務所 代表）
石橋 敏章 （一般社団法人日本水族館協会 会長）
- 4 事務局 文化スポーツ部文化政策課
- 5 傍聴者 1名

6 会議録（公開部分）

申請者	<入場>
申請者	<p>この度は、新潟市水族館指定管理者選定におけるプレゼンテーションの機会をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>私は、公益財団法人新潟市海洋河川文化財団新潟市水族館管理課長の斎藤と申します。最初に出席しておりますスタッフを紹介いたします。私の隣から財団事務局長の石田です。水族館館長の野村です。副館長の大和です。展示課長の山田です。管理係長の仁多見です。学びのデザイン係長の丸山です。後列奥からイルカの係長の石川です。水の生きもの係長の新田です。どうぞよろしく願いいたします。この後は着座にて説明をさせていただきます。</p> <p>それでは事業計画について説明いたします。当財団は1990年新潟市水族館開館当初から管理運営業務を行ってきた新潟市開発公社の水族館部門から分離独立し、2016年に設立された公益財団法人です。現在所属している多くの職員は継続的に水族館業務を行っており、30年以上の長きにわたって積み上げてきた知識、経験、技術や、築き上げてきた全国的なネットワークを十分に生かし、これまで以上に水族館の管理運営を行っていくことをお約束いたします。</p> <p>初めに、経営理念・経営方針について説明いたします。新潟市水族館は、その設置目的を達成するため、基本理念と6つの基本方針が定められています。当財団は、これらのことを踏まえて自然について楽しみながら学べる機会を提供し、生命の多様性が尊重される社会に貢献するというミッションを掲げる。新潟市水族館が新潟で一番愛される施設を目指すことをビジョンとしています。水と関わりのある様々な生物の展示や事業を通して、新潟の素晴らしさを最大限発揮し、新潟に水族館があってよかった、何度でも行きたくなると思っただけの施設を目指してまいります。</p> <p>次に、当財団は、ご覧の通り6つの運営方針を受け、水族館の管理運営を行います。水生生物と環境について科学的に正確な知識の普及では、施設の特性や役割機能を十分認識した上で、水族館の役割の一つである教育、環境教育に努めます。また、海洋河川を軸に地域水族館としての特色を生かし、多様な生物の飼育</p>

展示に挑戦いたします。あわせて、新鮮な感動と体験を提供し、自然保護、環境意識のきっかけ作りとなる水族館を目指してまいります。

平等利用の確保では、公の施設であるという認識を常に持ち、全てのお客様が気持ちよく利用していただけるよう、丁寧な対応をより一層徹底いたします。この他、施設・設備については、各設備の癖を熟知した職員が長い経験と高度な技術により、迅速で最善の対応を行ってまいります。

次に、事業計画の実施方針について説明いたします。新潟市水族館の設置目的や当財団の経営理念・経営方針を踏まえた事業体系で、事業を企画、実施いたします。

1つ目は、海洋河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業です。新潟における海洋河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、人との関わり大切さを後世に継承し、あわせて地域社会の持続的発展の担い手を育みます。2つ目は、海洋河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業です。新潟の自然環境と、そこに生息する水生生物の現状を基礎としながら、市民が海洋河川や水生生物などに関心を持つきっかけとなる機会を創出いたします。

次に、事業計画の実施方針に基づく実施計画及び目標です。最初に内容、実施方法について説明いたします。普及啓発では、田んぼ体験や野外体験教室を実施する他、講演会、社会教育施設や研究機関との連携により、海洋河川文化の普及啓発を図ります。調査研究では、日本動物園水族館協会や大学などと連携を強化し、生息環境が生物に与える影響などについて調査研究を行います。保護保全では、各種保護団体と連携を協力し、絶滅危惧種などの生息調査を行うとともに、繁殖技術の確立、向上に努めてまいります。

次に、水生生物に関する知識の普及では、企画展示やガイドイベントなどの他、教育プログラムや自然観察プログラムなどを行います。

次に、水生生物の飼育展示収集では、魚類、無脊椎動物などについては、飼育個体が健康で、できるだけ長く生きられるよう、適切な水質、温度管理を心がけます。また、展示生物や水槽内レイアウト、解説板などの更新を行うとともに、様々な企画展示を開催いたします。その他、自家採集や多くの漁業者と連携し、様々な生物を入手する他、他の園館との生物交換や共同採集なども積極的に行ってまいります。哺乳類、鳥類については、繁殖育成、他園館の生物交換などで個体数を維持するとともに、人と動物に負担、危険が少ない方法でトレーニングを行い、健康管理を行います。また、ショーや解説プログラム構成や内容を適宜更新させ、伝える技術の向上に努めてまいります。水生生物に関する資料の収集、保管、展示では、産卵シーンなど、通常見られないところや海底の様子などは映像で記録いたします。飼育個体が死亡した場合は、必要に応じて標本として保存展示し、その他死亡漂着生物は、標本資料として活用し、得られた情報は、展示やホームページを通じて公開いたします。

次に、入館者増加への取り組みについて説明いたします。集客及び収入の増加及び維持に関する実施について水族館の持続的な運営に繋げるために、新たなお客様の獲得とリピーターの確保、両輪で取り組んでまいります。そうすることで、集客と収入をともに増加、維持させることができるものと考えます。まず、新たなお客様の獲得として、隣県へのテレビなどへの広告、クーポン券付チラシ

の配布などにより、県外からの誘客を図ってまいります。リピーターの確保として、常に新鮮味のある展示を心がけるとともに、年間パスポートの販売促進のためにキャンペーンを行うなど、繰り返しの来館を誘導いたします。その他にも、旅行代理店などと連携し、団体のお客様の来館を促し、特に環境教育への関心の高まりから、学校の来館の増加にも努めてまいります。

次に、入館者ニーズの反映と広報戦略については、お客様ニーズを把握するため、これまで長年実施してきたアンケート調査の他に、ホームページやSNSの閲覧状況、他の水族館の動向調査を行います。それを広報戦略に反映させ、様々な広報手段を駆使し、その効果を最大限高めてまいります。広告宣伝予算の方針としては、県内、隣県を中心に、約半分をテレビやラジオに割り振ります。Webサイトはわかりやすい情報発信に努め、SNSでは即効性を生かし、話題性や旬の情報を伝えます。また、口コミは最大のPRでありSNSへの投稿や口コミで、家族、友人に薦めていただけることを念頭に置き、加えて、年間パスポート会員に対してはお得感を醸成して販売を促進してまいります。

次に、達成目標として企画展示は年間250日以上開催するほか、ガイドツアーは年間3企画20日以上を実施いたします。生物の飼育・展示は、仕様書にある600種、2万点以上を目標とします。また、年間入館者数は、コロナ禍で減少した入館者数を、今後の目標として54万人とし、入館料収入は4億6063万円以上を目指してまいります。当財団は、これまで年間パスポートの販売に力を注いでまいりました。今後も評価目標の1万4000人より高い目標を設定し、リピート回数も平均7回以上を目指してまいります。また、情報発信では、常に新しい情報、ホームページやSNSで週7回以上の更新を行ってまいります。

次に、経費の節減について説明いたします。当財団は、常に最小コストで最適な管理を目指し、お客様の安心、安全、快適を確保しながら、限られた予算の範囲内で、効率の良い管理運営を努めてまいります。主な管理経費の節減方法は、ご覧の表に示す通りです。ロシアによるウクライナ侵攻により世界的にエネルギー価格をはじめ、様々な価格が高騰しております。特に電気料金の高騰は著しく、水族館経営に大きな影響を与えております。飼育する生物の生命維持のため、電気料金の大幅な削減は困難ではありますが、職員一人一人が常に省エネルギーを意識し、経費の節減に努めてまいります。人件費については、適正化を図りつつ、業務の効率化に努め、その上で業務の見直しを行い、時間外勤務の解消に努めてまいります。このような状況の中であっても、完全なコスト削減だけにとらわれず、必要不可欠なものは、合理的に執行してまいります。その他に、収益事業の利益の一部は、広告宣伝費への支出や、施設設備の予防修繕のため、修繕積立金として積み立てを行います。

次に、自主事業に関する事業計画については、大きく2体系にわかれます。1つ目の海洋河川文化や水生生物の知識の普及啓発事業について説明いたします。5つの事業に分けて展開いたします。まず、生き物教室は対象年齢やテーマを絞り、探す、見る、触れる、考えるなど様々な体験を通して、より深い学びに繋げることを目的に実施いたします。講演会マリニピアカレッジは、通常の展示では伝えきれない生物情報や環境について職員または専門家をお招きし、広く市民に知っていただく機会といたします。野外体験教室は、海や川で生き物の観察方法

や採集方法を伝えることにより、その生物と環境に興味を持っていただくことを目的に開催いたします。ガイドツアーは、通常の展示では見られない閉館後の夜の水槽の様子やバックヤードを見学することにより、より一層の理解に繋がっていきます。出張展示については、クラゲやメダカなどの生体展示や活魚輸送車の展示などを行い、出張先の状況や対象、要望に合わせた内容を検討し、楽しく学べる内容といたします。

2つ目は、レストラン、売店、自動販売機などの設置についてです。お客様の利便性を図るために、館内各所に設置し、これらの収益の一部は指定管理会計に充当いたします。次に、社会地域貢献について説明いたします。海洋河川文化の振興に関する提案について、当財団の公益目的事業のひとつにある通り、海洋河川文化の振興にも積極的に取り組んでまいります。そのひとつとして、田んぼ体験を実施し、稲作と水生生物がともにある環境を身近に感じてもらう機会といたします。なお、令和5年度は、新潟市がラムサール条約湿地自治体の認証を受けたことを記念して、湿地への関心をより高める内容といたしました。

次に、市内産業への振興及び貢献について水族館で必要とする物資やサービス、委託業務などは原則、新潟市内の事業者を選定いたします。また、新潟市水族館は、市内でも有数の集客施設です。周辺観光施設や宿泊施設など、地域に経済効果をもたらすため、今後も市内産業に貢献できるよう、集客に努めてまいります。雇用確保については、新潟市在住者やUターン、Iターンを念頭にして選考してまいります。

次に、地域連携の取り組み及び提案については、水族館とお客様を繋ぐ役割として、ボランティアを受け入れます。活動内容は、主に館内案内、イベントの補助、いきもの解説などを行っています。常時100名以上が登録しており、今年度上半期は延べ人数で約250名の方に活動していただきました。小中学校の校外授業や特別支援学校などへは、これまで以上に対応を強化し、また、国や県の水産研究所など関係団体との連携では、希少淡水魚の保全や海洋生物の研究を推進いたします。その他、社会貢献活動として、これまで新潟大学医歯学総合病院などの小児病棟へのオンライン見学や出張展示を定期的に行っており、今後も継続してまいります。

次に、環境保護に対する取り組み及び提案として、環境保護は水族館展示の大きなテーマであり、社会においても大事なテーマです。当財団は、館内でのペットボトル販売を禁止するほか、ショーや各解説の最後に必ずメッセージを伝えます。また、職員のボランティア活動として毎月、海岸清掃を行っており、水族館だけでなく、社会全体の環境保護にも継続して取り組んでまいります。

次に、組織体制について説明いたします。ご覧の組織図で示す通り、組織構成として、安定的な運営及び公益財団法人を維持するため、当財団の役員、評議員には、各分野の有識者を選任し、事務局に事務を総理する事務局長を置きます。水族館においては、水族館業務を総理し、職員を指揮監督する館長を置きます。次に、水族館の適正な管理運営と更なる発展のために、管理課、展示課、学びのデザイン課の3つの課を置き、その下に係を編成します。課には課長、必要に応じて課長補佐を置き、係には係長を置き、各役職の関係性や責任の所在、指示系統などを明確にいたします。次に、施設管理に必須となる資格として、ご覧の表に示す通り、新潟市水族館を適正に管理運営するため、法定資格者及び経験者を

専任職員として配置いたします。その他にも、サービスの向上、安全安心の確保、飼育技術の向上を目指し、職員のスキルアップに努めてまいります。次に、それぞれの職務を効率的に遂行するため、雇用形態を正職員、嘱託職員、臨時職員に区分いたします。嘱託職員については、令和4年度に規則を改正し、臨時職員が無期の嘱託職員への転換が可能となり、現在9名が在籍しております。次に、労働条件は労働基準法その他関係法令に基づき、適切な労働条件を確保いたします。労働基準法第36条に基づく労使協定により、1ヶ月の時間外労働時間の上限を月45時間、年360時間と定め、また生物の生命維持など、突発的な事象への対応のため、特別条項として上限月80時間、年6回までと定めます。また、年次有給休暇の最低年5日間取得義務や勤務間インターバル確保など常に最新の情報を収集し、働きやすい環境を整えてまいります。その他、毎月1回衛生委員会の開催や、定期健康診断、ストレスチェックを毎年実施し、職員の健康管理に努めてまいります。ハラスメントについては、必要な規定を整備し、ハラスメントを未然に防ぐとともに、相談窓口を設置し、早期の把握、対策を講じる体制を整えます。次に、配置計画として管理課は長年、公共施設の管理運営に携わっている職員を配置し、多様な角度からより質の高いサービス提供を目指します。また、機械設備を適切に維持するために、豊富な知識と経験を備えた設備担当職員を配置いたします。展示・飼育業務を担当する展示課は、専門的な知識や飼育技術を生かし、適切な飼育環境での展示を継続してまいります。2つの係に編成し、適宜の人事異動により、専門の幅を広げ、課全体でバックアップする体制を構築してまいります。

教育普及事業、人材育成、入館促進などを担当する学びのデザイン課は、教育と広報の共通点を活かし、能力、経験のある職員を専属で配置するとともに、校外学習などの対応のため、生物や環境の専門的な知識、技術を持つ展示課職員を兼務として配置いたします。

次に、人材育成について説明いたします。当財団は水族館の管理運営を行うにあたり、常にその能力の維持向上に努めてまいります。私達が正会員として所属する日本動物園水族館協会や日本水族館協会などの専門会議や研修会に積極的に参加し、最新の飼育技術などの情報や、水族館を取り巻く社会情勢の把握と対応など共通課題への取り組みも進めてまいります。

次に、財団職員の成長、人材育成のため様々な研修を実施いたします。接遇研修やアナウンス研修、階層別研修、その他にも救命救急講習を行います。また、SNSが原因で様々なトラブルを引き起こすというニュースをよく耳にいたしますが、SNSコンプライアンス研修を実施することで、水族館に対するイメージダウンのリスクを回避いたします。

次に、自己評価の仕組みとマネジメントへの反映について説明いたします。自己評価の指標として、当財団は中長期的な水族館の目標を掲げ、その目標の達成のために年間目標を設定いたします。その年間目標を踏まえ、課や係ごとの目標と個人目標を設定することで、日々の業務に取り組む基盤を作ります。また館内アンケート、意見箱の評価や意見を踏まえ、適正に施設の管理運営が行われているかを自己評価する他、新潟市などから受ける外部評価も活用いたします。

次に、マネジメントへの反映として、自己評価を事業にフィードバックする方法として、計画、実行、検証、改善を恒常的に繰り返していくPDCAサイクルを用

	<p>い、業務改善に繋がります。協定書及び仕様書などに定められた指定管理業務を日常的、定期的に点検し、次のサイクルへの改善を行います。自己評価をマネジメントに反映させるためには、業務への取り組み意識の醸成が重要であり、そのため職員研修などを活用し、職員のリーダーシップ、マネジメント力を向上させていきます。</p> <p>次に、ワーク・ライフ・バランス等を推進する取り組みについて説明いたします。現時点で各項目について当てはまる項目はありませんが、今後、職員全員が仕事と生活の調和のとれた働き方ができるような取り組みを積極的に行い、働きやすい環境を整えてまいります。</p> <p>続きまして、施設の管理運営についての説明をいたします。施設の管理運営方針として、当財団は新潟市民の貴重な財産である新潟市水族館を最初に述べた経営理念と6つの経営方針に基づき、管理運営を遂行してまいります。</p> <p>安全対策、緊急時対応として、お客様が安心して利用できる施設作りは、施設管理者にとって最大の責務であると考えます。ご覧の表に示す通り、未然に防ぐための対策、備え、発生時の対応を十分に行い、お客様の安全を最優先にした行動を行います。また、緊急事態発生時は全ての業務を停止し、全職員でお客様を安全な場所へ迅速に避難、誘導を行います。</p> <p>次に、維持管理についてご覧の表にある内容で、施設設備の維持点検を確実に実施してまいります。年間スケジュールを作成し、休館日の少ない水族館で展示生物と施設設備の維持管理を確実に実行してまいります。</p> <p>次に、サービス向上のために具体的な取り組みについて説明いたします。個人情報保護と関係関連法令の遵守への取り組みとして、当財団の個人情報保護規定に基づき、職員全員が理解を深め、個人情報の安全管理、必要かつ適正な体制を整え、確実に保護いたします。コンプライアンスの取り組みについては、社内研修を実施し、公共施設管理者の一員としての意識や責任について周知徹底を図ってまいります。</p> <p>次に、入館者ニーズを把握するため、お客様への積極的な声掛けやアンケート、意見箱などのモニタリングツールを大いに活用し、要望を収集いたします。自主事業として行う教室などにおいても、参加者全員にアンケートを実施いたします。次に収集した多数の要望について対応改善できるものは遅滞なく実施し、協議が必要な案件は対応策を検討し、速やかに実施いたします。結果については、施設内とホームページに掲示するとともに職員全員を周知いたします。</p> <p>次にその他の取り組みとして繁忙期や閑散期、割引サービスなど、ご覧の通りの取り組みを行ってまいります。その他にも一般チケットのオンライン販売など、お客様のご意見や社会動向を見ながら、今後も様々なサービスの提供を行ってまいります。</p> <p>以上で事業計画の説明は終了となります。</p> <p>最後になりますが、館長の野村から次の5年間の決意を述べさせていただきます。</p>
申請者	<p>私たち財団は、水族館の展示テーマとして、地域の自然、水辺環境、水生生物の紹介を柱として考えております。そして来館者の皆様には、新潟の環境多様性の豊かさというものを知っていただいて、それを次の世代に確実に繋いでいくということ、その重要性を発信したいと考えております。</p>

	<p>2020年は、私たちマリニピア30周年の年でした。そのときに歩んできた30年を振り返りまして、これからどういった方向に進んでいくのかというのを改めて確認したところであります。そこでいろいろな魅力あふれる展示の企画いろいろ考えたのですが、残念ながらコロナ感染拡大によって、実施できなかった企画がいくつかあります。</p> <p>これからの5年間でまず、まだできていない企画をぜひ行っていきたいと考えております。安心安全で魅力あふれる水族館であり続けて、新潟で一番愛される施設を目指します。ありがとうございます。</p>
申請者	<p>以上となります。最後までご清聴いただきまして誠にありがとうございました。</p>
木伏委員長	<p>よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。</p> <p>それではこれより各委員からヒアリングさせていただきたいと思っております。質問のある委員の方は挙手をお願いいたします。</p>
本間委員	<p>どうもお疲れ様でした。ありがとうございます。</p> <p>私の方からちょっとお聞きしたい点は、23ページの収支計画書のところなのですが、こちらの人件費、正職員の方のところ、2億982万6000円ということで、6年度7年度からずっと同じ金額になっているのですが、昇給とかそういったものを加味されているのかどうか、金額が同じだということをお聞かせいただきたいと思っております。</p>
申請者	<p>はい。6年度から毎年1名ずつの定年退職がおりまして、その分のまずは減額があります。その補充するという意味で、1人正職員に補充するということなのですが、それと今委員のおっしゃった昇給と合わせて、この金額であるということ、概ね同じ金額になるのではないかとということで、5年間同じ金額で、収支計画の方は出させていただいております。</p>
本間委員	<p>そうしますと定年退職者がいるので、その方がいなくなることによって新規採用があって、給与が下がるという事になるので、それを昇給分と精算してこの中でやれるという計算ですか。</p>
申請者	<p>そうです。</p>
本間委員	<p>そうですか。ありがとうございます。</p> <p>もう一点教えていただきたいのですが、よく「ESなくしてCSなし」というふうに言われていて、お客様満足度を上げるには職員で働いている方の満足度を上げることも大切だと言われているのですが、財団さんの方で、職員の方の満足度を上げるための取り組みとか、ここを意識しているとか、そういったものがあれば教えていただきたいです。</p>
申請者	<p>事務局長の石田です。職員の勤務に対する満足度ですが、我々のビジョンに沿った、新潟で一番愛される施設を目指すというビジョンに沿った個人の目標を毎年、年度当初に立てます。立てた目標に対して、上司が助言をしたり、達成するための方法を一緒に考えたりして、最終的には年度末でどこまでできたのかというような評価をして、その本人の目標の達成度が水族館のビジョンにどれだけ貢献したのかというのをフィードバックして、本人たちと考えるっていうようなことをしておりますので、この辺で自分たち1人1人がどんな形で新潟市水族館に貢献できたのかというのがある程度明確にわかるような仕組みをとっています。</p>

本間委員	ありがとうございます。そうしますとフィードバックをかなり重要視して、ご本人の能力、目指すべき姿と水族館のそのビジョンって言うていいんですかね、そちらとか一致して、働く人が能力を発揮できるように、そういったことに中心にして満足度を上げているということで、よろしいでしょうかね。
申請者	その通りでございます。
本間委員	どうもありがとうございました。私からは以上です。
木伏委員長	お願いします。
石橋委員	<p>石橋です。大変素晴らしいプレゼンテーションありがとうございました。また館長の決意表明もあって、ぜひその方向でやっていただきたいと思います。ご説明の中で働きやすい環境作り、そして、一方で経費節減というご説明がありました。なかなかバランスを取るの難しいと思うのですが、こちらの収支計画書を拝見いたしまして、お尋ねしたい点があります。</p> <p>消耗品が令和6年度は515万で、その中に、栽培対象資源対策事業費関連が150万入ってまして、令和7年度からはそれがないと読み取れるのですが、それにしても、消耗品費が大幅に減額されているところが、ある意味ちょっと心配で、お尋ねするのですが、この辺はいかがなものでしょうか。無理をしているんじゃないかとちょっと心配しているのですが。</p>
申請者	はい。令和6年度の栽培対象事業支援対策事業ですけれども、こちらの事業が令和6年度で終了となります。この事業の内容としまして、ほぼ消耗品の関連事業となっていて、その事業が終了することによって、令和7年度には、そこがもうそっくり抜けているというか、削減されているというような形になっております。
石橋委員	そこは承知しているのですが、515万から150万を引いても360万近いですよ。それが令和7年には100万に大幅に減るところが、ちょっと大丈夫ですかという流れです。
申請者	はい。支出の中で分かれておりまして、今委員のおっしゃっていたところが自主事業というところになるのですが、自主事業のところでは、備考欄に書いてある通り、販売用商品の購入ですとか、あと年間パスポートのキャンペーンもやっているのですが、そのキャンペーン分の負担を当財団の方でやっているということで、100万ほどの経費の執行となっているのですが、水族館全体の消耗品の支出としては、その上にあります施設の運営業務のところ、消耗品という項目がございまして、水族館の業務につきましてはこちらの方から支出する形になっております。
石橋委員	360万が100万になっても、自主事業の方は大丈夫だということですね。
申請者	はい。
石橋委員	わかりました。
平田委員	<p>平田と申します。今日はありがとうございました。プレゼンを見ていてすごく盤石な組織体制だなというふうに思いましたし、今後数年間新潟の中で何をたどる中で、というか新潟で一番愛される施設を目指すってところ、すごく何かイメージできるなというふうに感じて伺っておりました。</p> <p>その中で何点か気になる場所があったのですが、広報をSNSなど十分に活用されていてとても素晴らしいなと思っている部分と、これと多分紐づいてくる部分で、差し替えでいただいた正味財産増減予算書です。私も飲食をやって</p>

	<p>いたりというのもあるので、附帯事業収益のところ、売上のところ、数字がちょっと前年度と比較して上がっていくイメージになってはいますけれども、これはどういったところから数字が上がってきているか教えていただければよろしいでしょうか。</p>
申請者	<p>収益事業に関しましては、収益事業に応じて広告宣伝費の方も、上下するといえますか、収益が上がればその分、広告宣伝費を上げるということになってはいます。なかなかコロナ禍の状況ですと、収益というものがなかなか上げづらいような状況でしたので、その年度は広告宣伝費は若干抑えめにしておったのですが、令和5年度につきましては、コロナも5類に移行されたということで、コロナ禍前の収益ぐらいには上がるんじゃないかなということで広告宣伝費も、ちょっと増額するというような形になっております。</p>
平田委員	<p>わかりました。ありがとうございました。あとですね、海岸清掃と地域社会貢献という部分でされているということだったのですが、こちらやはり地元の小学校と、学校さんとか、あとは今ゴミ拾いされている団体さんもいくつかの生まれていたりして、先日も日本の海岸清掃コンテストで優勝された団体があったり、そういったところとの連携みたいなものはあるのでしょうか。</p>
申請者	<p>はい。先ほど申し上げた海岸清掃なのですが、特に他の団体との一緒に共同でやっているということではなくて、私達水族館の職員とその家族とボランティアでやっているということで、毎回、少ない規模なのですが10名から20名程度で、ボランティアということで毎月1回やっております。3月から、冬は行ってないんですけど、3月から11月までの間、毎月1回やっているということで、他の関係団体等は連携してやっているということは特にないです。</p>
平田委員	<p>ありがとうございます。単純にその水族館と関わりながら海岸清掃ができるということ自体、すごく魅力的に感じるなと思ったので、ぜひそういった機会があると、さらに愛してくれる人が増えるんじゃないかと感じました。</p>
木伏委員長	<p>委員の木伏でございます。とても素晴らしいですね。どうもありがとうございました。また、館長さんのスピーチは感動しました。ありがとうございました。</p> <p>2点お聞かせください。プレゼンの資料の7ページの中に、新たなお客様の獲得とあるのですが、新たなお客様と今のお客様との識別というか見分け方ってどうなっているのかなっていうのが、これはまず1つです。</p> <p>もう1つが、同じプレゼンの資料19ページでございます。事業の雇用労働条件ということで、現状と今後の取り組みって書いてありまして●（黒丸）が4つあるのですが、この●の4つのうちですね、どれが現状なのか、またどれが今後の取り組みなのか教えていただきたいと思っております。以上です。</p>
申請者	<p>はい。それでは木伏委員の質問の前半については、私、石田の方からお答えしたいと思います。新たなお客様といいますと基本的には県外の方だとか、市外県内の方ですね。基本的には観光でいらっしゃるって1年に1回、せいぜい2回いらっしゃるようなお客様を新たなお客様というふうに考えてはまして、私たち、新潟で一番愛される水族館ということは、使い勝手の良い水族館、使い倒してほしいということから、基本的には年間パスポート購入していただいて、年に5回、6回、7回と、目標は7回ですけれども、来ていただくというのがお客様の</p>

	<p>で、新たなお客様を確保するという事になると、基本的には市外県外のお客様の対象に発言していることとございます。</p> <p>ここに旅行代理店との連携ということもありまして、実は昨年の令和4年度の入館者数が50万人を超えてコロナ禍以前に戻っているんですね。ですけれども、団体のお客様が、金額でいうと500万円、人数でも5000人ぐらいまだ戻ってきてないんです。その辺をやっぱり旅行代理店と協力をして、こちらへ来るためのツアーなんかも企画していただいて、その辺からコロナ禍前、それ以上に団体のお客様もまた来てくださるような取り組みを考えていますので、それも新たなお客様への取り組みというふうな形で表現しております。</p>
申請者	<p>2つ目の質問についてですけれども、現状と今後の取り組みということで、まず一番上の全職員の55%が女性職員というのは現状であります。正職員、嘱託職員、臨時職員合わせてその中の55%が女性職員として在籍しているということになります。</p> <p>次の性別に関係なく業務担当ということで、こちらの方も、例えば力仕事だから男性がやるとか、そういったことは関係なく、男女関係なく営業の方は担当しているということになります。</p> <p>それから3つ目の女性職員の中に管理職登用の候補者ありということで、現在、今日出席している職員が係長職以上の職員になるのですが、この中で係長が3人おりまして、それ以外は男性ということになっております。女性職員の係長なのですけれども今後、管理職への登用も視野に入れていけると、これは今後の取り組みになります。</p>
木伏委員長	<p>どうもありがとうございました。以上でございます。</p> <p>委員の方、他はよろしいですか。</p> <p>それでは申請者の評価となります。その前に事務局から連絡事項があります。事務局お願いします。</p>
事務局	<p>それでは事務連絡をさせていただきます。本会議の公開はここまでとなります。評価は非公開で実施いたしますので、傍聴者の方は恐れ入りますが、ご退席をお願いいたします。</p> <p>続きまして、申請者の皆様からもご退席をお願いいたします。</p>
申請者	<p>それではよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。</p>
申請者	<p><退場></p>